

いわざ民報

社行發 社報民きわい (第一八三第電) 地番一町田市平

所込申讀講紙本 平市町一番地電三八一 いわざ民報社

暗殺行爲

不逞な投票排撃 洋の東西を問はず投票は國民大衆の爲政者や時の政策に對する不平不満のぶちまけどころ

總選舉緒戦の幕切

演説會場は各地とも低調 既成陣營は地盤的に有利

總選舉の幕は十一日の告示に依つて縣下一齊に切つて落され、言論戦は各地とも活潑に開始されたが、財産税申告問題に次いで今度は農村の死活を制するといわれ、供出米の強權獲得問題などが横り、緒戦とは云ひながら演説會場は何れも極めて

候補者略歴

進歩黨(新) 坂木隆 平市町に居住、進歩黨(新) 坂木隆 平市町に居住、進歩黨(新) 坂木隆 平市町に居住

進歩黨遂に分裂

本部の裁斷が興味めく 當り、黨員釘木術雄が専ら私情を以つて本縣公認候補者の詮衡決定したるは不當の措置にして黨規を紊亂したるの甚しきものとす、仍てこゝに釘木術雄を除名するものとす、右決議す

平市の行政整理

商工課、勸業課へ統合廢止 工務課長 技師 眞野眞作 庶務課長に 上野忠重氏

永山市議

十日満場一致で 元治▲政務調査會長川田昌孝 ▲評議員會長佐々木莊治 ▲遊説部長鈴木修一郎

候補者略歴

古川 傳一 進歩黨(新) 植田町に居住、古川 傳一 進歩黨(新) 植田町に居住、古川 傳一 進歩黨(新) 植田町に居住

苦心の復興施策成る

平市明年度豫算二十五萬圓増

1.065.938

平市の明年度豫算は去る十日の本會議で無修正原案通り可決した。豫算總額は百六萬五千九百三十八圓でこれを前年度(二十年)當初豫算と比較すると二十五萬六千圓の増額を見られる。豫算全体を通じ戦時施策を一切削減し、戦災復興、厚生施設や生産増強に力を注いでいる点が認められ、理事者の苦心歴然たるものあり、又一般の物價指數に比較し劣悪の世評あつた吏員の待遇を總花的に向上、これに六萬圓の増額してゐるので吏員の動搖も防止出来るものと見られてゐる。各科目別に重なるものを擧げると次の如し

會議費—三千四百圓増額
 一萬二千圓計上されたが、これは物價高に依り會議費三千四百圓増し、市會議長の費用増額五十圓上げて四百圓に計上した程度

役所費—六萬二千圓増額
 十九萬五千八百二十二圓計上されたが、これは吏員の待遇向上に振り向けられたもので、市長の年俸五千圓を一萬圓に、助役三千二百圓を六千圓、収入役二千六百圓を三千五百圓とし、これですべての三役も縣内三市長並になつた。主事、視察、技師など高級吏員七人分平均二千四百圓を二千六百圓、書記以下九十圓平均を百圓に上げ、全体で三萬三千圓増額、需要費、修繕費で二萬八千圓増してゐる土木費—七千四百圓増して二萬五千圓計上、道路橋梁費が大部分を占めてゐる。

救濟事業に重点

授職、簡易給食、宿泊も考慮

厚生費—戦時中は僅か一萬圓より計上してゐなかつたが思ひ切つて十三萬六千八百圓計上してゐる。母子保護等救濟費で七千八百圓増し、生活困難援護費が厚生費の大部分を占め十二萬五千圓計上されてゐる。主なるものを擧げると

授職に隣接して六十坪程度の受職作業所を新築、生活困難なものとか、流浪して職に就けぬものなどを收容して失業者の對策に充て八萬圓計上

生活物資も援護
 勸業費—二萬二千圓増額三萬圓計上されてゐる、農林關係を積極的に行ふことになつた

断然多い石城郡の有権者

平・双葉・相馬合せても及ばぬ

總選舉の幕は遂に切つて落され、祖國再建のために、厳正なる審判を下すべき有権者は、平市及び石城郡下での位あるか去る一日現在の調査によると

平市一四、二二八、石城郡一七、六〇一、相馬市合計三一、八二九

となつてゐる、この郡下の有権者を他郡のそれに較べると

信夫七一、〇六四、伊達六〇、〇九六、安達五七、四三二、大郡の二郡より、小郡の三郡より、安積四四、九一一、岩瀬三六、七三三、南會津二六、八二二、これより一萬六千五百五十、北會津四三、四四三、郡五郡も多く、更に双葉、相馬、石川六〇、八九六、田村五八、四〇一、双葉三九、〇六六、相馬六一、九七八

郡市通じて女天下

一番多いのが大野村

平、石城の有権者の男女別をみても有利となつて来る。この別表の如く婦人が断然男をとなつてゐる。町村別について更ら凌駕し、平市では女の五割九分をみると、男の多い町村は遂に四厘に對し、男は四割六厘で、一ヶ町村も見當らないといつた。石城郡下でも女が五割六厘を占めるのは、六割強を占める大野村を占め、男より一割三分八厘も、次いで六割弱の豊間町と多くなつてゐる。郡市合せてはなつてゐる、反對に男女の差の男の四割二分九厘に對して、女少いのは女が五割二分三厘を占め、五割七分九厘を示し一割四分ある田村、次いで好間村の二厘も多く、こゝに選挙に關し五割二分九厘とある、果してこゝは何といつても御婦人の天下の多い女性が多過ぎる。何故となつてゐる、従つて女性が正しく行使する、今次選挙から目覚めて、この與へられたの興味はこゝにも大きくかゝつて、一票を完全に行使するとなればとてゐるといへやう。

江名の危機解消

中ノ作側の獨立放棄で

水産福島の王座を占める江名市は、通達して来た、これに對名町漁業會では、さきに會長小川會側でも多年中、作側の要望松金重郎氏が理事の都合上と、する製氷場、會事務所出張所及び理由で任期半ばで辭任したので、中田善三郎氏を代行として經營して来たが、去月末で任期となつたため、去る二十六日總會を召集したところ、突如大字中ノ作を中心の中ノ作以南の永崎、折戸、下神白の業者達が結束して脱會獨立して別個の漁業會結成を策し、承認方を要求、極めて強硬な態度を表示して来た、狼狽した幹部は一先づ總會を流會とすると共に縣に報告、善後策考究中とのところ、縣も成行を憂慮、急遽縣水産界の重鎮で元會長であつた黒川善一郎氏を會長代行に任命、事態の善後方を指示して来たので、黒川氏は即時中ノ作側代表と會見、その眞意を打診すると共に、八方圓満解決に奔走中だつたが、この程に至り全氏の誠意の中ノ作側も感激、漸く折れて初志を翻し従前にも増して町發展のため協力

新町長鏡又七氏か

小名濱の新町會極めて明朗

補欠選挙執行後初の小名濱町會で圓滿におさまると町長と職員は去る八日開かれ、新議員二十名の辭職に依る目的が達せられ、決事項四件の報告があり、追加の豫算案上提可決、臨時出納検査員を補充して圓滿に初顔合せを行つたが、中には辭表を出さなかつた三議員に對し「タツタ三名の爲に二十五名の補欠選挙を行つたのは遺憾である。何故に辭表を出さなかつたか心境を聞きたい」といふ個人的質問も出たが、鏡町長「自分の努力が足りなかつたのだからマア」となだめて新町會圓滿のため、名町長を擁護し、前町會に見るやうな對立的空氣が掃蕩され、町會の明朗化が實現されたやうである。

言すきわい

供出米に對する強權發動の前に、増田知事が奮闘のため石城郡下へやつて来た。目的は謂ふまでもなく強權發動に至らぬやう農民の諒解を求めらるゝであつたらうが、町村の推進員を集めて講演催かに三、四分間、選ばれる如く立ち去るのでは懸念が、諒解にもならぬ。何故成績が悪いのか究明し陳情も聞いて諒解を打開せねばならぬのではないかと草野村長等では町二反歩を耕し九人家族三十五俵割當で九人、僅か二反歩で家族が同じ九人一町四反の耕作で五十五俵といふ不合理なことがある、又同じ隣接地で各一反歩に對し、地元の草野村民には六俵一斗、神谷村から来て居る未定であるが、新町會が豫想外圓滿に進行する空氣が明らかになつた爲遠からず臨時町會が召集されることになるらしい。

郡市有権者調べ

市町村名	男	女	計	市町村名	男	女	計
飯野	八三三	一一三	九四六	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
夏井	六六六	一一一	七七七	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
高久	五五五	一一一	六六六	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
江名	四四四	一一一	五五五	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
鹿島	三三三	一一一	四四四	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
小濱	二二二	一一一	三三三	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
磐崎	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
湯本	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
内郷	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
好間	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
赤井	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
永戸	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
神谷	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
草津	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六
大浦	一一一	一一一	二二二	市町合計	五、五三三	三、三三三	八、八六六

自分の金でありながらも、自分がどうすることも出来ず同一条件下に生活しなければならぬ。新生活が... 圓切換への波紋は？

就職熱依然として低調

閑古鳥が鳴く勤勞署の窓口

遊んでゐる一人百圓の貯金引換へかけて割合多くなつたが、出で生活費を賄ふに足らぬ次第に就職熱も冷め窓口に比較...

封鎖から自由へ急テンポ

各家庭で節約した零細な金銭を預る平郵便局窓口は今月に入つてからの受入、拂出の動向を探つて新聞切換に依る、街の財政を見る

開放 童心の切賣り

児童を側面的武器として供米完成への意欲向上に作品を配布したが、更に一段の強化策として授業を二、三日中止し...

完遂僅か一ヶ町

振はぬ郡市の供米成績

平市並に石城郡下の供米運動は依然低調、既に完遂したもの湯本、四ツ倉の二ヶ町のみ、これを平均すると三月七日現在で...

大閨小閨

相變らずの

新圓切換で一時は物價も相當安くなるだらう... 大閨小閨 相變らずの

地域一本建

健保の懸案解決 平市國民健保組合では更生策として保險醫の門標表示、職域組合員も地域組合員としての取扱...

同愛の名も嬉し

泉村に消費組合誕生

みなと、小名濱の玄關口にあたり、お寺の古い村として有名な石城郡泉村では村の一割を占める疎開者の發起により、今度同愛消費組合が誕生、各町...

修理工場

石炭助成會

石炭助成會が 修理工場 石炭助成會が

一票八百圓也

小名濱選挙余録 小名濱選挙余録

婚禮の晩に釜を抜く

赤井・小川に盗難頻々

新婚生活には入つたものの、依然金より物の世の中であつて、窃盗も殆んど金より物を狙つてゐるが、これは又變つた馬や豚...

た某氏など五十何票かて四万圓使つたといふから一票八百圓かにつく譯、中には選挙日の二十七日に追加分として百圓宛置いて歩いたとか、街をブラついてゐる者に札束をぶつろへねじ込んで浮動票を吸収したなど小名濱らしい大きい話聞か、賑はつてゐる今回の衆議院議員選挙の費用が二万一千圓に限定されてゐるのに、僅か九ヶ月の任期で實際これだけの選挙費用を使つた...

